家庭科学習指導案

単元名:「住まいの安全マスターになろう」

(全8時間扱い中 第2時)

授業日時 2019年8月28日(水)第2校時

授業学級 2年 D組

家庭科教室

授業者

指導者

授業会場

(1) ねらい

住まいの中の危険な場所について、家庭内事故の特徴を踏まえて事故防止の対策を考えることができる。

(2) 授業のポイント

- ・住まいの役割と家族・生活行為との関わりについて知り、日本の住まいや住まい方について学んだ子ども達が、安全に住まうためにはどうしたらよいか考える。
- ・「住む人」「場所」に着目して、危険個所とその対策を考える。

(3) 展開

過程	学習活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材	時間
導入	I. クレヨンしんちゃんの家で起	○住まいの中にはどのような危険が潜んでいて、どん	5分
	こった家庭内事故を提示し、	な対策ができるだろう。	
	家庭内事故について知る。	◇家庭内事故への対策の必要性を感じられるよう、生	
		活の中で経験した事例を発表させるよう促し、学習	
	問題を設定する。		
	学習問題:安全に住まうためにはどうしたらよいだろう。		5分
	2. 家庭内事故のデータを読み取		
	り、住まいの中のどういった	◇家庭内事故の年齢別の件数のデータや事故原因のグ	
	点が危険なのかを考察する。	ラフを提示し、どんな年齢層が多いか、住まいの中	
	[グループ、全体]	のどういったものが危険かをつかませ、学習課題を	
		設定する。	
		★家庭内事故の原因データ	
	学習課題:「住む人」「場所」に着目して、危険個所とその対策を考えよう。		
展開	3. 住まいの安全ドクターとし	○「住む人」「場所」それぞれの視点から危険	15分
	て、家の中の安全をチェック	個所を見つけ、その対策を考えよう。	
	する。[グループ]	◇自分の視点から考えていく時に、様々年代の人の視	
		点からも考えられるよう、高齢者や幼児の身体的特	
		徴に着目するよう促す。	
		★高齢者も幼児もいる住まいの図、付箋。	
	4. 各グループで話し合ったこと	○見つけた危険個所から、どのような対策が考えられ	15分
	を発表する。[全体]	ましたか。	
		◇場所ごとにまとめて、家庭内事故が起こりやすい場	
		所やその対策について意識できるように示唆する。	
		★出てきた意見を書き足していく模造紙、色紙。	
		住まいの中の危険な場所について、家庭内事故の特徴を	
		踏まえて事故防止の対策を考えることができる。	
終末	6.振り返り[個人、全体]	│ └────────────────────────────────────	10分
		◇ラロの技業であるたけまいの女主対象を踏まれて、 自分の住まいでできる、家族構成に合わせた安全対	10 %
		策について考えよう。	
		70 74 (1/2 0 / 0	

(4) 板書計画

(5) 反省

- ・学習問題から学習課題に行く過程において、「安全対策について何か考える必要があるね」と自分から問い かけてしまい、生徒たちの疑問や課題意識を上手く引き出せる導入にならなかった。前時に学習した住まい の機能における「安全性」という面に着目して、前時の続きとして関連づけた投げかけをするべきだった。
- ・危険個所とその対策を考える活動の際に、説明が上手く伝わっていなかったことから、付箋に危険個所の説明を書いてしまう生徒が多く、その対策について考えられていない様子が見られた。また、全体共有の際もそうだが、学習課題にもある「住む人」という観点から、誰にとって何が危険なのか、その危険個所がなぜ危険となるのかといった、具体的な場面等をもっと問いかけられれば良かった。
- ・模造紙に全体共有した意見を付箋で書いて貼っていくときに、青ペンではなく、みんながどの箇所に着目したのかが分かりやすいよう、赤ペンなどの分かりやすい色で丸を付けて、付箋の色も、発表してもらった班でとに分けるのではなく、幼児や高齢者などの視点にも着目とあるように、誰にとって危険なのかの「人」によって付箋の色を変えられたら、より見やすかったのではないかと思う。
- ・意見の全体共有の際に、同じ箇所でも対策の違う班の意見をもっと引き出せるよう、机間巡視の視点を工夫 すべきだった。また、共有の際も全員が参加できるように配慮するようには気を付けたつもりではあるが、 もっと周りを巻き込んだ対話の多い進行・まとめ方にできれば良かった。
- ・早口禁止。生徒たちの考える時間を与え、意見を待つ。

<流れ>

導入

- ○住まいの中にはどのような危険が潜んでいて、どんな対策ができるだろう。
- ◇クレヨンしんちゃんの住まいで起こった家庭内事故を提示し、家族だけでなく幼児や高齢者にとっても住ま いの中には危険が潜んでいることに気づかせる。
- ・家庭内事故のグラフを読み取る。 家庭内事故は交通事故より多い、原因は○○が多い…
- ○住まいの中の何を見れば、安全と言えるだろうか。
- ・学習問題の提示後、家庭内事故の原因のグラフを見せ、
- ・幼児の窒息死の例を基に対策を考える際の視点を掴ませる。
- ◇安全な住まいとはどのような要素から成り立つのかを考え、意見を出してもらう。

展開

住まいのホームドクターとして、家の中の安全をチェックする。

・家の中の危険個所を見つけ、赤丸をする。その後、何が危険かを考え、対策について考える。

★場所ごとにまとめられる模造紙(間取りだけでよい)

<発問計画>

ここはクレヨンしんちゃんのお家。

今日は秋田のおじいちゃんおばあちゃんが家に遊びに来ます。

おや。ヒマワリちゃんが泣いているね。 どうしたんだろう。 原因は何だと思う? (①~③でクイズ) 実は家の中はどれも当てはまる可能性があるんだよ。

「ひまわりちゃん、今行くからね!って、わぁぁ!いたたたた…」

今回はケガで済んだからいいけど、事故死っていうんのもあり得るからね。

家庭内事故で死亡している幼児や高齢者の数は…